

【氏名】 幅崎 麻紀子

【所属大学院】（助成決定時） 北海道大学大学院 文学研究科

【研究題目】

政治的社会的混乱を生きる「単身女性」の生活戦略
～ネパールにおける「エッカルマヒラ運動」の人類学的研究～

【研究の目的】

本研究は、ネパールにおけるジェンダー規範が厳格な高カーストヒンドゥー社会を中心に、単身女性（寡婦、離別・未婚女性）の生活世界、彼女たち自身による伝統的な社会規範についての解釈と社会との交渉過程を、女性たちのライフヒストリーと語りを通して把握するものである。その上で、近年の社会情勢の変化とマオイスト紛争が、単身女性の生活を如何に変容させ、女性達にどのような影響を及ぼしているのか、また、女性達は近年の社会情勢の変化に適応すべくどのような働きかけを行っているのかを、寡婦女性による「エッカルマヒラ」運動に着目しながら、単身女性の生活の変容と女性達による社会への主体的活動について研究することを目的としている。

注）「エッカルマヒラ（単身女性）」とは、人権運動を行っている寡婦等の女性達による、差別される存在としての「未亡人」ではないことを主張するための自称。

【研究の内容・方法】

本研究では、カトマンズにて女性団体や政府機関への聞き取り調査、及び、西部丘陵地域のポカラと中西部丘陵地域のスルケットにて、単身女性団体に属する人々へ、質問紙を携えながら半構造的インタビューを実施した。その上で、特に、キーインフォーマントとなる女性の家にホームステイし、日常生活を共にしながら参与観察を行った。また、キーインフォーマントの女性たちの生活史を把握すべく、非構造的インタビューにて、ライフヒストリーを収集した。更に、単身女性の生活の変化を家族の視点から把握するため、彼女たちと暮らす家族への聞き取り調査を併せて実施した。

聞き取り調査をした内容は以下の通りである。

1. 結婚生活：結婚形態、同居家族、ダイジョ（持参財）、夫との関係
2. 夫の死亡：死亡原因、夫が死亡したことによる精神的インパクト、経済的インパクト
3. 喪に服す：儀礼、行動規制、その経験をどのように感じたか。
4. 夫の生存中と死亡後の婚家との関係性（儀礼面、精神面、経済面）の変化

5. 夫生存中と死亡後との生家との関係性（儀礼面、精神面、経済面）の変化
生活に対する不安要素
6. 未亡人となつてからの公的領域における経験
7. 「単身女性グループ」に参加すること：きっかけと活動、期待と失望、変化。

ネパールでの現地調査終了後、録音したキーインフォーマントのライフヒストリー、及び、その他のインフォーマントの語りのテープ起こしを行い、現在、日本語に翻訳作業を行っている。

【結論・考察】

ヒンドゥーイデオロギーにより、寡婦に期待される行動や身体表象があり、寡婦として家内領域にひっそりと暮らすことが求められる社会規範がある一方で、寡婦たちの生活実践においては、寡婦であるが故に、それまで接点の無かった公的領域において社会活動を行う寡婦の姿を捉えることができた。すなわち寡婦となったことをきっかけに学校へ通う女性、NGO 活動に参加する女性、商売を始める女性、職業に就く女性などである。夫がいないことが、行動範囲を広めることに繋がっていた。

また、寡婦の増加に伴い、近年、寡婦自身が、「未亡人」に科せられた負の側面を強調しながら、権利向上のための社会運動を展開している。寡婦による人権運動は、「未亡人」と結びついていた行動規範や宗教的概念を緩和することに成功した。しかし、運動が全国展開するに連れ、ヒンドゥーイデオロギーに基づく「伝統的」寡婦像が、民族宗教を越えて、ネパールにおける「寡婦」像を生産・再生産していた。

ネパールにおいて、寡婦たちをめぐる社会的状況は変容しつつある。その背景には、紛争という特殊な状況と、寡婦による社会への働きかけ、寡婦による社会との交渉が存在している。